



# 町内外からの観光客で大盛況 スチューベンぶどう祭り



△スチューベンぶどうの棒パン焼き体験は大人気

町特産のスチューベンぶどうを観光客に味わってもらおうと、10月10日（土）から12日（月）まで、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」でスチューベンぶどう祭り（町観光協会主催）が開催され、町内外から訪れた多くの観光客でにぎわいました。

イベント会場では、スチューベンの食べ放題や、スチューベンの果汁を生地に練り込んだ棒パン焼き体験、11日にはスチューベンのもぎとり体験などが行われました。また、県内の道の駅フェアも開催されたほか、沖縄県や新潟県、当町と友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町の特産品も販売されました。（株）鶴の里振興公社の山本一郎社長は「鶴田町を他のどこにも負けないぶどうの産地にするため、スチューベンぶどう祭りも10回、20回を超えるものにしていきたい」と期待を込めていました。

祭り初日には、スチューベン大福が先着100人に無料で振る舞われ、大福を食べた弘前市の中村正道さん・喜久代さん夫妻は「皮にも餡にもスチューベンが使われていて食べた時にフワッとブドウの甘酸っぱい香りがしておいしかった。また食べたいですね」と笑顔。また、同じく弘前市から訪れた館浦善清さん・逸子さん夫妻は「毎年、今の時期にしか飲めないスチューベンの生搾りジュースを目当てに来ています。いろんな商品が買えるあるじゃが大好きですね」と話していました。

3日間の来場者数は約3万4千人に上り、看板商品のスチューベン大福は約1万個販売されました。

（下）10日（土）には、東奥日報社による「食の味力発見!!」イベントが開かれ、先着100人にスチューベン大福が無料で振る舞われました。



オープニングセレモニー

## INTERVIEW



青森市から家族で訪れた中村那桜ちゃんはスチューベンの食べ放題に挑戦。「家族5人で12房食べました。スチューベンは甘くておいしくて手が止まらないです」と笑顔で食べていました。



町内からお母さんと一緒に遊びに来た出町來夢君と夢叶ちゃんは、スチューベン果汁を練り込んだ生地を使った棒パン焼きを体験。「棒パン焼き楽しかったです。スチューベンの香りがしてもちもちでおいしい」と喜んでいました。



(上) 期間中は、スチューベンぶどうが特別価格で販売され、おみやげや贈答用に連日多くの買い物が買い求めていました。



(右) スチューベンぶどうの重量当てクイズ。化粧箱の重さを当てた人には化粧箱入りスチューベンぶどうがプレゼントされました。



(右) スチューベンぶどうを丸々1房使った「生搾りジュース」も連日大好評でした。糖度20度以上のスチューベンの味をそのまま楽しめるジュースを飲んだ方々からは「(ぶどうの味が)濃い。とにかく甘くておいしい」と絶賛の声が上がっていました。



スチューベンが入った箱の積み込みを手伝う園児たち

## スチューベンが全国へ出発

町特産のスチューベンぶどうを全国の消費者にお届けするゆうパックの出発式が10月9日(金)、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」で行われました。

9月下旬から収穫が始まった今年のスチューベンは着色も食味も良く、糖度は20度以上。式では、津軽ぶどう村の須郷貞次郎社長が「甘さがギュッと詰まったスチューベンを食べてもらいたい」とあいさつした後、ひなづる幼稚園の園児たちが和太鼓の演奏でゆうパックの出発を祝いました。

記念のテープカット後、スチューベンと「完熟スチューベン原液」合わせて1930箱が積み込まれたトラックは園児らに見送られながら、全国の消費者のもとへ出発していきました。